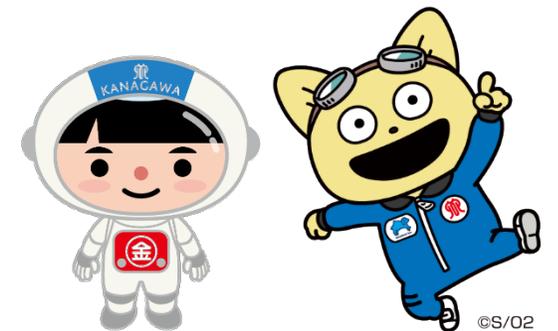




神奈川県の宇宙関連産業振興の取組

令和 8 年 3 月 12 日
神奈川県産業労働局産業振興課



産業振興課について

新産業振興グループ

- 課の予算、決算、庶務
- ベンチャー支援
- 地域未来投資促進法に基づく事業計画の認定 など

技術開発グループ

- 技術開発支援
- (地独)神奈川県立産業技術総合研究所 (KISTEC)の運営指導
- 宇宙関連産業の振興 など

さがみロボット産業特区グループ

- さがみロボット産業特区の推進
- 生活支援ロボットの開発、実用化促進、導入支援、普及啓発 など

海老名駐在事務所

- (さがみロボット産業特区推進センター)
- プレ実証フィールドの管理・運営 など

はじめに：

神奈川県は宇宙関連産業を振興しています

世界における宇宙産業の構造変革

- ・ 商業宇宙活動の加速
- ・ 宇宙ソリューション市場の拡大 など

国の「宇宙基本計画」（市場拡大目標）の改訂や
「宇宙戦略基金」の設置

神奈川の「強み」「勝ち筋」を特定して

宇宙関連産業を振興

同時に、宇宙の「夢を与える題材」としての側面にも着目

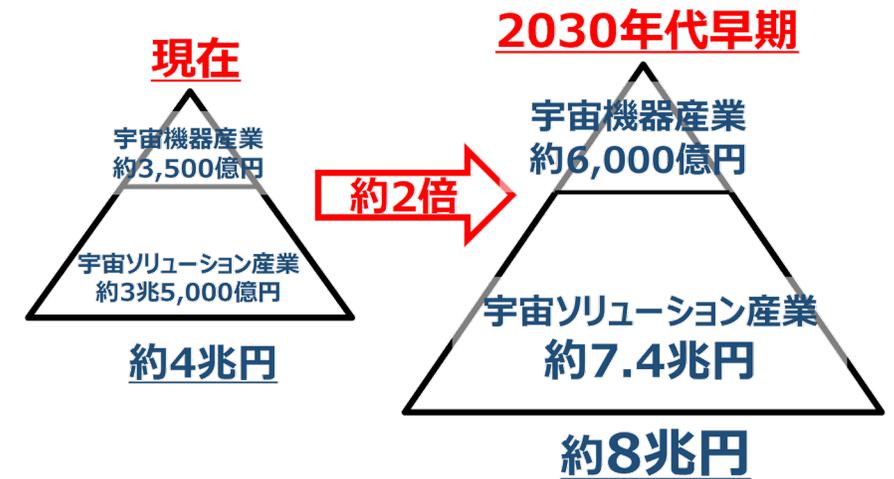
「宇宙基本計画」 (市場拡大目標)

- 宇宙機器と宇宙ソリューションの市場を合わせて、2020年に4.0兆円となっている市場規模を、2030年代の早期に2倍の8.0兆円に拡大

「宇宙基本計画」 (令和5年6月13日閣議決定)

「宇宙戦略基金」

- 「輸送」「衛星等」「探査等」の3分野において、スタートアップをはじめとする民間企業や大学等が大胆に技術開発に取り組めるよう、JAXAに新たに基金 (総額1兆円規模) を設置



(出展) 日本航空宇宙工業会、「令和3年度宇宙産業データブック」等より引用し、内閣府が試算
【「国内外の宇宙産業の動向を踏まえた経済産業省の取組と今後について」 (令和6年3月) より抜粋】



神奈川の特徴

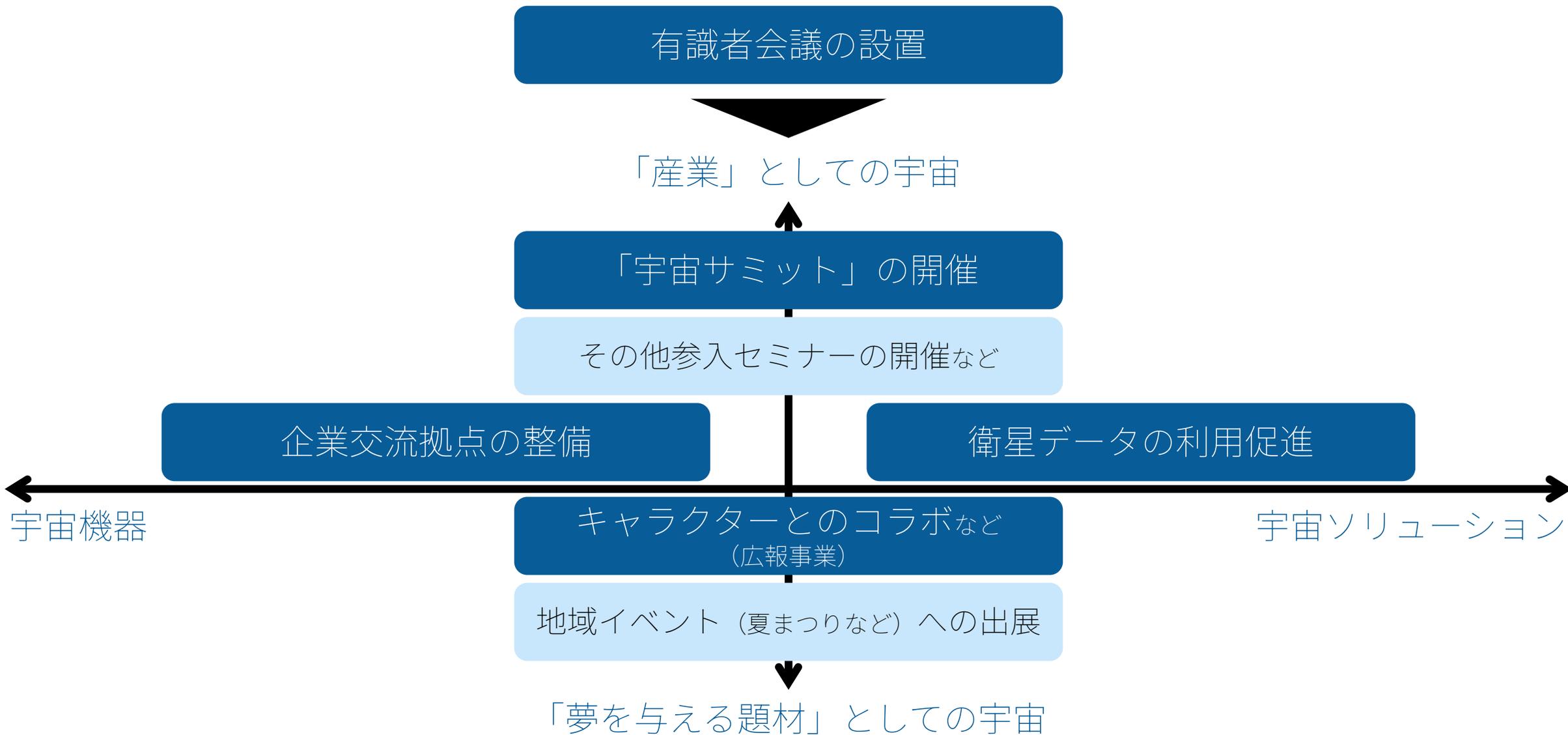
「競争力の高い産業の集積」や「充実した交通ネットワーク」

- 自動車など輸送用機器をはじめとする「ものづくり分野」の産業の生産拠点が集積
- 企業の研究機関や大学などが数多く立地し、技術開発にかかわる高いポテンシャル
- 横浜港、川崎港、横須賀港といった国際貿易港、首都圏の広域的な道路網や鉄道網をはじめ、様々なネットワーク
- リニア中央新幹線の新駅も設置予定

「衛星といえば神奈川県」

- 相模原市、鎌倉市等には、国内屈指の衛星（完成品）メーカーの事業所
- 横浜市、大和市、茅ヶ崎市等には、きわめて高度な技術力を有し、衛星の部品・素材供給、衛星データを利用したソリューションサービス、衛星の設計・製造の支援等を行う事業者
- 相模原市には、日本の「宇宙科学研究の核」となる宇宙科学研究所（JAXA）

主な施策の全体像



有識者会議の設置



令和7年8月21日 第1回有識者会議

神奈川の宇宙関連産業の振興を考える 有識者会議

構成員	赤塚 剛文	マッハコーポレーション代表取締役社長
	新井 元行	Synspective代表取締役CEO
	荒木 慎介	三菱電機鎌倉製作所副所長
	大坪 正人	由紀精密代表取締役
	北澤 幸人	元神奈川県参与/学習院大学理学部客員研究員
	倉原 直美	インフォステラ共同創業者・代表取締役CEO
	白坂 成功	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科教授
	中須賀真一	東京大学大学院工学系研究科教授
	野口 聡一	宇宙飛行士
	野中 朋美	早稲田大学経営システム工学科教授
	橋詰 卓実	三菱UFJ銀行宇宙イノベーション室長
	藤本 正樹	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所長
	山口 耕司	オービタルエンジニアリング取締役社長
	米津 雅史	クロスユー事務局長

開催実績	第1回	令和7年8月21日
	第2回	令和8年1月16日

「宇宙サミット」の開催

（目的）

- 宇宙関連企業の集積に向けた機運醸成
- ネットワーキング・ビジネス機会の創出・参入促進
- 企業が自社の技術や製品・サービスをPRできる場の提供



（施策）

- 首都圏自治体初の大規模宇宙ビジネスカンファレンスを開催
- 宇宙関連企業、JAXA（宇宙航空研究開発機構）、自治体などで「実行委員会」（主催者）を組織
- 様々な主体の知見を活用し、魅力あふれるイベントに



企業交流拠点の整備

（目的）

- 宇宙関連の企業などの「つながり」を強化

（施策）

- JAXAと連携しやすい相模原市に交流拠点を整備



KANAGAWA
Space Village

所在地：相模原市緑区橋本3-28-1 ミウィ橋本2階

※JR橋本駅徒歩2分

機能：オフィス・コワーキングスペース等

（令和7年12月23日開設）

ラボスペース

対象：宇宙関連の企業、大学・研究機関、

金融機関、支援機関、自治体など

利用料：無料・事前の利用登録が必要

特色：・コーディネーターによる相談対応

・利用者同士の交流イベント など

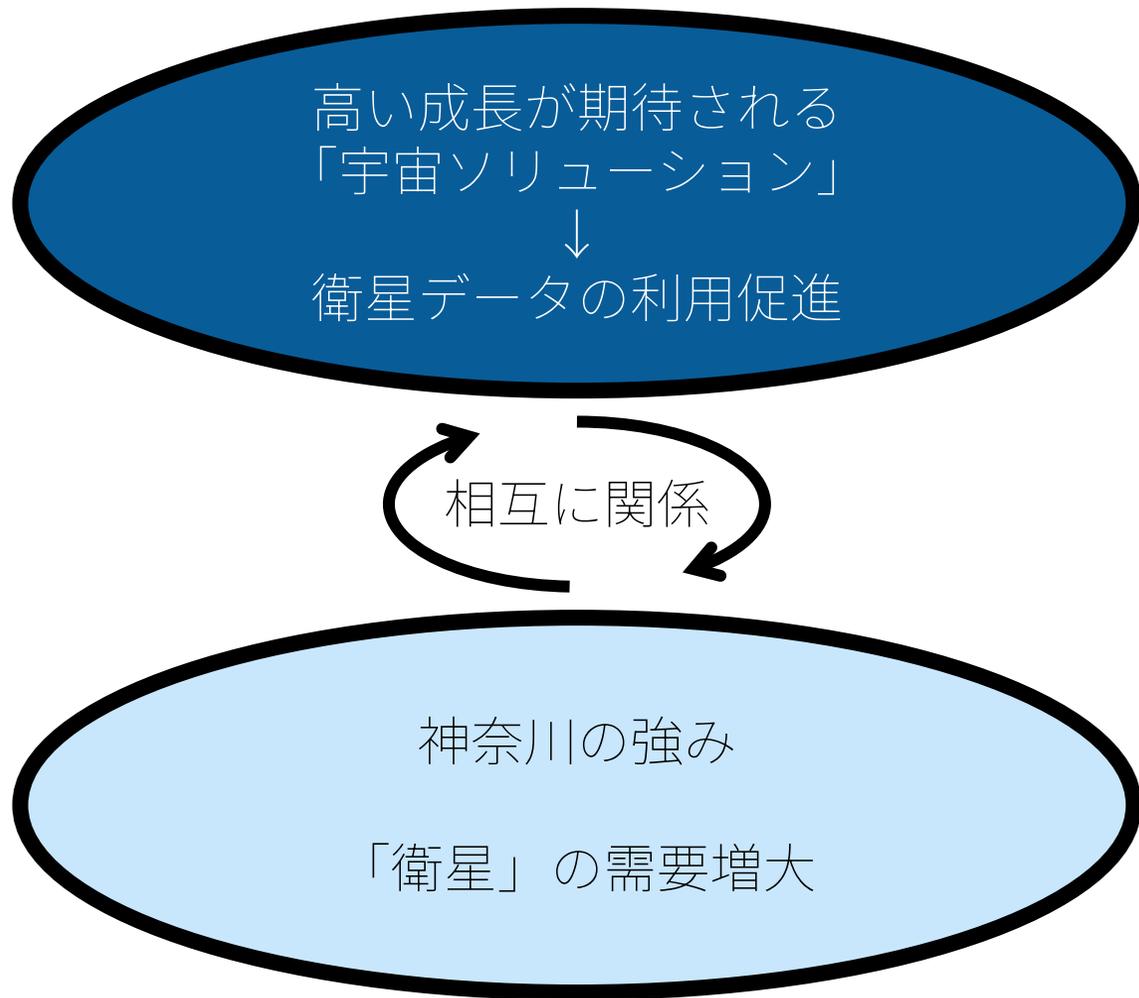


コワーキングスペース



ギャラリースペース
（一般向け展示空間）

衛星データの利便促進



（目的）

- 衛星データの利便促進
（「衛星」の需要増大にも）
- 同時に、衛星データの利便により神奈川の地域課題解決に貢献



（実策）

- 衛星データ利便のセミナー・ワークショップを開催
- ビジネス（モデル）を募集・事業化を支援

キャラクターとのコラボなど（広報事業）

（目的）

- 子どもを含め宇宙を身近に感じてもらう
- 宇宙・宇宙関連産業などの認知度向上



（施策）

- 応援アンバサダー
「宇宙なんちゃらこてつくん」
- 子ども向けイベントなど、「将来の宇宙人材」育成のきっかけにも



神奈川の現状・留意点 | 自治体に期待される役割など

- ◆政府（国）は、数ある宇宙関連分野それぞれについて、世界の潮流を踏まえて、日本（全体・共通）の課題・方針を議論・整理。取組を進めている。
- ◆有識者会議において、神奈川の現状・留意点を踏まえながら、神奈川の「勝ち筋」に適切にフォーカスを絞り、自治体に期待される役割などを議論・整理していく。



【参考】 「政府（国）」と「民間」の連携・役割分担など

政府との連携、民間の中での連携

●政府と民間の連携・役割分担の在り方

- 政府が強い民間を後押し（サービス調達、アンカーテナンシなどで）
それで民間がさらに強くなる効果を狙う
(略)
- リスクを如何に下げて民間が参入できるようにする政府の施策（工夫）を検討すべき
 - ・ 多数で迅速な実証の機会が重要。軌道上実証がないと相手にしてもらえない
 - ・ シェアライドなど、「しきい低く」試行錯誤ができる枠組みを

●民間による世界での利用コミュニティづくり

- 技術だけ良くても使ってもらえない。利用コミュニティを作り、強い仲間づくりを世界規模で目指す必要。
「セクショナリズム」が進む世界の中でどう仲間づくりをするか？
(略)
- そこに政府支援が必要な場合、民間が政府の動きを誘導することが重要

【東京大学大学院工学系研究科 中須賀真一教授「超小型衛星による新しい宇宙開発利用と宇宙ビジネスの潮流」（令和5年2月）より抜粋】